

## はじめに

本書は、研究をはじめたころからごく近年にいたる間に書いた小論（中には少し長いものもあるが）のうち、あまり目にとまらないところに収められたもの、また私自身の主要な研究の前提あるいはその後の展開にかかわるものを、主として集めたものである。

小論三九本を収めるにあたって、内容にかかわりなく執筆年次順とすることも考えたが、あまりに縮まりがなくなるのを恐れ、大きく「戦国の若狭」「秀吉の時代」「家康・秀忠・家光」「京都と所司代・町奉行」「大名と領知」「安定期社会を考える」の六部分に分け、その中では原則として執筆年次順に並べた。なお、巻末に執筆順を概観していただくため、他の論稿とともに「著書・論文等一覧」をあげた。

【戦国の若狭】には、戦国期の若狭に関する論稿三本を収めた。1「若狭国一國徳政の一史料」（一九七〇年）は、一九六九年に中世史研究者が情報交換の場として創刊した小冊子『月刊歴史』一八に掲載されたもので、江戸時代中期の若狭国小浜の町人学者木崎惕窓がその著『拾権雑話』に書きとめた天文二十年（二五五二）の徳政令と若狭国神子浦の「大音文書」中の徳政令断簡とが同一のものであることに気付き執筆したものである。近世の地誌の有用性を知る契機となり、その後も折に触れその恩恵を蒙っている。なお、この徳政令は、一九九八年刊行の佐藤進一・百瀬今朝雄編『中世法制史料集』第四卷（岩波書店）に収められた。

2「戦国時代の加地子得分」（一九七二年）は、一九七二年三月に京都大学文学部を退官された赤松俊秀先生の退官を記念して刊行された『国史論集』に掲載されたもので、若狭国小浜に所在する時宗寺院西福寺と日蓮宗寺

院長源寺とがそれぞれ所蔵する戦国期の売券を主に使用し、安良城盛昭氏の一職支配の議論を念頭において書いたものである。本稿を研究会で報告したおり、大山喬平先生から売券にみえる「公方」が荘園領主を意味する用語でもあることを指摘されたことをいままなお鮮明に覚えている。

3 「大阪青山短期大学所蔵「梶又左衛門宛織田氏宿老連署状」をめぐって」(二〇〇八年)は、開館以来関わっている福井県文書館の『福井県文書館研究紀要』五に掲載されたもので、二〇〇〇年六月に大阪青山歴史文学博物館で講演したおりにいただいた『大阪青山短期大学所蔵品図録』収録の梶又左衛門宛織田氏宿老連署状に気を止めたことが一つの契機となり執筆したものである。内容は、これまでまちまちであったこの文書の年代を確定し、同時にこの時期の若狭の政治状況の一端を探ったものである。

【秀吉の時代】には、秀吉期に関する論稿六本を収めた。4 「耳塚と秀吉」は、『京都民報』の鎌倉期以降の京都の史跡に関する連載の一つとして書き、その後刊行された『続史跡でつづる京都の歴史』(法律文化社、一九七九年)に収められたものである。

5 「天正二年五月二十日付羽柴秀吉書状をめぐって」(一九八一年)は、『敦賀市史』編纂にあたって創刊された『敦賀市史研究』二に掲載されたもので、『敦賀市史』史料編第三巻に本文書を収めるに際し年代を確定する必要に迫られ書いたものである。なお、この文書は、『史料綜覧』では天正三年(二五七五)のものとするが、一九九七年に刊行された『大日本史料』では天正二年のものとして収録されている。

6 「根来衆の軍事力について」(一九八三年)は、一九七九年度から八二年度にわたる熱田公先生を研究代表者とする科研の報告書『根来に関する総合的研究』に収められたものである。

7 「暮松新九郎書状をめぐって」(『日本史研究』四五八、二〇〇〇年)は、かつて『小浜市史』諸家文書編一、『福

井県史』資料編9で「曾新九郎書状」の名で収録された書状をめぐる論稿である。天野文雄氏が著書『能に憑かれた権力者』(講談社、一九九七年)において、この書状は秀吉に仕えた能役者暮松新九郎のものであることを明らかにされた。この成果を踏まえたくて、本稿では、この文書の年代と読みについて自説を展開している。

8 「十六世紀末における日本人の地理認識の転換」は、紀平英作氏を代表者とする二二世紀COEプログラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」の報告書『グローバル化時代の人文学』上(紀平英作編、京都大学出版会、二〇〇七年)に収録されたもので、この時代に描かれた世界図屏風・日本図屏風を主たる素材に日本人の地理認識がいかに大きく転換したかを論じたもので、私が担当した「15・16・17世紀成立の絵図・地図と世界観」班の研究成果の一つである。

9 「慶長三年の越前国太閤検地関係史料」(『福井県文書館研究紀要』七、二〇一〇年)は、豊臣秀吉文書集成の作業をする過程で出会った名古屋博物館所蔵の秀吉文書と溝江家文書の秀吉関係文書を中心に紹介したものである。なお、本書には収めえなかったが、拙稿「豊臣期における越前・若狭の領主」(『福井県史研究』一二、一九九四年)がある。

【家康・秀忠・家光】には、家康に関わる論稿五本、秀忠に関わる論稿二本、家光に関わる論稿四本、計十一本を収めた。10 「住友家所蔵の田中清六関係文書」(『敦賀市史研究』一、一九八〇年)は、家康の佐渡支配に深く関与した初期豪商田中清六関係の文書七点を紹介したもの。この文書の一部は「新庄古老覚書」所収の「田中宗親書上」に写として収められ、それまでも知られていたものであったが、『敦賀市史』の調査の過程で、小葉田淳先生のご紹介で原本が住友家に伝来していることが分かり、住友家の了解をえて翻刻することができた。なお、この文書と関連するものに「田中梓文書」(『敦賀市史』史料編第二巻)があり、また住友家と田中家の関係については安國良

## 1 若狭国一國徳政の一史料

初出：『月刊歴史』一八、一九七〇年

ここに紹介しようとする若狭国天文二十年（二五五二）の一國徳政令は、『若狭漁村史料』のうち「大音文書」の二四〇号に断簡の形で収められているもので、後半を欠いているために、年代も不明のままにされていたものである。たまたま、近世の若狭の地誌である『拾樵雑話』（宝暦年中）に、若狭小浜の鼠屋に所蔵される、天文二十年十一月七日付の徳政令の写を見出した。そこで、「大音文書」と比較検討してみると、多少、字句に相違があるだけで、同一の徳政令であることがわかった。まず、最初に全文を載せる（鼠屋文書を主にし、字句の相違は横に（ ）で示した。なお（・）は欠字である）。

## 定國中徳政之事

- (1) 一借錢借米不論高利小利、無預状並御公物等雖有如何様之契約、可有棄破事、
- (2) 一御判頂戴族、雖有如何様之御文言、可有棄破事、
- (3) 一禪居庵之祠堂米錢不可有棄破、但雖為式文字祠堂文言不明者、可有棄破事、
- (4) 一 小浜中質物之事、捨利子以本錢（平）本米可請出、質物出札之面、雖為三ヶ月並六ヶ月限、絹布十二月、兵具金具（可） 廿四月、閏月為初月之外、蔵出日限三十ヶ月、萬一無子細、紛失之由申族有之、可准盜人、自然質物取出時（可） 及喧嘩口論、互可被処罪科事、
- (5) 一 浜中蔵方之借錢借米並質物田畑・山林・家・蔵、船等、仮雖有如何様之契約、可有棄破事、

- (6) 一年貢縱殘未進・捨利平加申合・可為同前事、  
(段銭) (於) (ナシ) (ナシ) (者)
- (7) 一札無之質物及異議者、可被処罪科事、
- (8) 一田畠山林等質物并質本物以下、本主可返付事、  
(ナシ)
- (9) 一米和即算用高下之時節申合代物者可(准)高利代物兼而当秋以請取申合、借物可有棄破事、  
(米銭之和市) (之)
- (以下「大音文書」に欠く)

- (10) 一頼母子之米銭并諸講米銭之事同前、
- (11) 一以上借物并塩手米斗雖為買得之米銭、加利平於約諾者可有棄破、付塩手米同前、  
 右之条々於違犯輩者可被処罪科、萬一此外雖有申旨不可能許容者、仍下知如件、
- 天文二十年十一月七日

式部丞

肥前守

修理亮

さて、若狭において、徳政令が出されたことが知られているのは、文安三年(一四四六)・享祿四年(一五三二)・天文二十年の三度である。文安三年の徳政については、網野善彦氏が『中世荘園の様相』の中で言及されているのでひとまずおくことにする。

徳政についての研究は決して少なくはなく、戦後とくに中世農民闘争の観点から進められてきた。しかし、戦国期の徳政をあつかった研究は少なく、中村吉治氏の「戦国時代後期の土一揆と徳政」・「戦国前期の土一揆と徳政」、鈴木良一氏の「戦国時代の徳政」があるくらいで決して多いとは言えない。

若狭における享祿四年の徳政は、「羽賀寺年中行事」の中に、「享祿四曆辛卯三郡百姓等依有愁訴徳政畢」とある(この「三郡」は、三方・遠敷・大飯の若狭を構成しているところの三郡である)。この享祿四年の徳政は、天文六年四

月十九日付の熊谷亀寿田地売券(「西福寺文書」)に、「此武段之田地者、先年親候者渡辺十郎左衛門尉ニ雖沽却仕度、就享祿年中之徳政之御法、監物丞売券状ニ本物返之文言在之条、得御意、任御法之旨、棄破令勘落、依当用売渡申候」とあり、徳政令が出された事およびその内容を多少知ることができる。享祿四年の徳政令の内容については、「鳩拙抄」(「中世法制史料集」第二卷室町幕府法所収)に「若州ヨリ吉田三河守所望ニ付被注遣也、享祿四、九、十七」なる注のついた「徳政条々」がある。内容を検討するため、左にあげる。

徳政条々

若州ヨリ吉田三河守所望ニ付被注遣也 享祿四・九、十七

- 一、太刀、長刀、鎧、うてぬき、あけまき、ゆこて、前かけ、弓、うつほ、矢、武具たるへし、約月廿四ヶ月、  
 一、蚊丁可為絹布類之条、置月ノ外十二ヶ月たるへし、  
 一、椀、折敷、銚子、提、鍋、釜、家くたるへし、約月同前 先条ニ見ヘタ  
 一、ぬり箱、女房手具足、但鏡ハ金物たるへし、  
 一、番匠道具、農作道具、鞍、鐙、くつわ、毛せんのくらお、い、かわはかま、たちかけ も、引、可為雜具  
 約月同前、

一、樂器具足 しやうこ、篋、笛大こ、つ、み、かつこ等、置月ノ外十二ヶ月

一、日銭事、百文之内ハ一倍たるへし、百文以上ハ諸質の類たるへし、

以上

この徳政条々は、吉田三河守の求めに応じて、「被注遣」されたものであるが、熊谷亀寿田地売券で知り得る所の、田地に関する徳政の条文を含んでいないことから、この徳政条々がそのものではなく、徳政令の適用にあたって質券の約月を定めるためのものであるう。それも幕府令を参考にしつつも、天文五年の武田元光書下(「西福寺文書」)の文言「國中徳政」からも推測できるように、独自の徳政令を出したものと考えられる。なお、この

以上、側用人と役員制の問題を、主従制と官僚制との対抗という視角からみてきたが、今年度のシンポジウムのテーマである「ゆらぎ」と「戻り」という視角をこれに加えることで、側用人の取立て↓その廃止↓御側取次の取立てという一連の動きや、役員制導入↓その廃止↓足高制導入という一連の動きを、これまでのように成立・否定・復活といった脈絡で分節的に捉えるのではなく、より一つの連続の中での「ゆらぎ」のなかに位置づけることができるのではと考えている。

## あとがき

この三月に京都大学を退職すること、また一昨年、咽喉癌にかかり、しばらく入院を余儀なくされたことも重なって、昨年、この本を作ろうと思い立った。

本書には、研究をはじめて以来、近年に至るまでの約四〇年にわたってさまざまなところに書いたもののうち、単著、著書に再録あるいは改稿して収めたもの、また講座論文や特定のテーマのもとで書いたもの、北野天満宮の社報に連載しているコラムなどを除き、そのなかでもあまり目にとまらないところに書いたものだけを収めた。

収録するにあたっては、表現の統一、てにをはの不備、引用文献の表記など若干の訂正を行ったが、ものものを大きく改変しなかった。結果、初期に書いたものに文章のまずさが特に目につくが、それららの研究の力量と軌跡を示すものとしてそのままにした。

当初は、四六版で三〇〇頁程度のもをと思っていたが、集めていくと段々ふくらんでいき、結局A五版で五〇〇頁近い本になってしまった。しかし、この本をまとめる過程で、自らの研究の軌跡を振り返ることができ、いくつか新たな問題も見出すことができた。

最後に、出版事情の厳しいなか、思文閣出版には少々身勝手な本の刊行を快く引き受けてくださった。また本書の刊行を担当してくださった原宏一さん、田中峰人さんにはさまざまにお世話になった。文末ではあるがともに感謝申し上げる。

本多忠勝 155, 157  
 本多政重 390, 392  
 本多正純 135, 141, 145, 153, 156, 164, 189, 232  
 本多正信 232, 260, 269  
 本役 10, 14~17, 19, 20, 22, 23  
 本役・段銭の得分化 17

ま

迷子触 ix, 409, 412, 413  
 前田玄以(徳善院) 121, 255~258, 263~268, 272, 276  
 前田利次 388~391  
 前田利常 viii, 306, 317, 388~393  
 前田利長 122  
 前田利治 388~391  
 前田光高 viii, 388~393, 396  
 前波長俊 51, 53  
 牧野信之助 48, 74, 93  
 牧野親成 278, 280, 281, 287, 289~294, 299, 300, 310  
 牧野成貞 441, 443~445  
 マグダレナ 134~138  
 真崎順子 254, 271  
 増田長盛 79, 86, 88, 89, 121, 255, 256  
 町触 vi, ix, 247, 278, 409, 415  
 松平晋之丞氏所蔵文書 127, 128  
 松平輝貞 442~445  
 松平信綱 200, 209, 216, 232, 285, 306, 317, 391, 391, 394  
 松田毅一 86, 88, 93  
 松田政行 259~270, 273  
 松原益庵 367, 376, 377, 379  
 松前(まつまい) 77, 78  
 松前慶廣 126, 127  
 マテオリッチ 74  
 間部詮房 443, 445  
 鞠山藩(越前) 347~350  
 マルチネス図 74, 75

み

三方郡(若狭) vii, 11, 35, 36, 321~328, 332~336

三方郡郷方役所文書 321, 323  
 三鬼清一郎 38, 39, 68  
 水野忠貞 281~285, 287~290, 292, 297, 298  
 溝江長氏 94, 102, 105~107, 114  
 光豊公記 149, 267  
 源家康印章 iv, 123, 126~129  
 南アメリカ 75  
 南勇家文書 112  
 南川高志 139  
 耳塚 ii, 43~47  
 宮城和甫 220, 222  
 宮崎重成 281, 287, 288, 292~297, 300, 301  
 宮紀子 83, 84, 93

む・め

向井佐五左衛門 324~326  
 武藤舜秀 48, 51, 53  
 村上直 117  
 村越直吉 122  
 村田修三 9  
 明正天皇(興子内親王) 180

も

毛利輝元 59, 60, 90, 156, 157, 256  
 毛利秀就 214, 215, 217, 394~398

や

八木哲浩 220, 223  
 役料制 235, 238, 447, 448  
 安國良一 iii  
 柳川藩 192  
 柳沢吉保 441~445  
 山内一豊 140, 145, 146, 148, 157  
 山口弘隆 284, 298  
 山城 77, 78, 222, 226, 229, 230, 273, 278, 281, 288, 294, 295, 298, 305, 306, 316  
 山城南勝志 46  
 山田峻一家文書 112  
 山中長俊 85  
 山名文書 345  
 山本巖文書 358

山本元 49, 351, 355, 358  
 山本博文 201, 202, 217, 218

ゆ・よ

結城秀康 160, 161, 189  
 横川榮文書 358  
 横山俊夫 viii, ix, 364, 409, 418, 429, 439  
 横山長知 392  
 吉田健 112  
 吉野甚左衛門日記 81, 82, 90  
 米津親勝 254  
 淀殿 134, 136, 137  
 与力 238, 282, 285, 288, 296~298, 301, 302, 304, 307, 308, 313

ら

洛中絵図 303, 304, 314, 316  
 羅利国 78, 91, 92

り

リスボン 75  
 柳営日記 285, 287, 288, 290, 291, 294

~301, 440, 444  
 琉球 73, 77, 78, 87  
 龍頭一夫文書 358  
 リンスホーテン図 72

る・ろ

ルソン(呂宋) 73, 79, 88, 89, 92  
 老中職務規程 201, 208, 233  
 老人 ix, 409, 414, 415, 417  
 牢人切手 311, 312  
 鹿苑日録 138, 263, 267, 273

わ

若尾政希 392  
 若狭(国) i~iv, 1, 3~7, 9, 10, 13, 14, 21, 23, 26, 27, 30, 32~35, 37, 48~50, 54, 77, 131, 132, 230, 231, 305, 307, 315, 316, 321, 326, 328, 330, 332, 336, 343, 344, 347, 348, 365, 373, 401, 402, 405  
 若狭国一国徳政(令) i, 3~8  
 渡辺浩 364, 385

伝馬朱印 125

と

土井利勝 144, 152, 172, 174, 175, 177, 178, 180, 182, 184~186, 199, 200, 205, 206, 209, 213~215, 232, 233, 305, 316, 401

土井利房 291

東武実録 v, 62, 168~180, 182~185, 187

言経卿記 263, 267, 269, 271, 272, 274

時慶卿記(時慶記) 146, 256, 264, 271~273

徳川家継 434, 443, 445

徳川家宣 434, 435, 443, 445

徳川家光 i, iii, v, viii, 115, 153, 170, 174, 178~182, 185, 186, 188~196, 198, 199, 201~206, 208~211, 216, 220, 232, 281, 298, 311, 365, 388, 391, 392, 394~406, 435, 440, 447

徳川家康 i, iii, iv, 65, 115, 117, 118, 120~123, 125~133, 135~139, 142, 144, 145, 147, 149, 151, 153, 155~168, 189, 243, 253~258, 260~265, 267~270, 275~278, 382, 395, 400, 403~405, 440

徳川家康文書の研究 iv, 120, 125~127, 149, 272, 274

徳川綱吉 349, 363, 409~411, 434, 436, 437, 439~441, 443, 445~447

徳川秀忠 i, iii, v, 115, 124, 132~134, 151, 153, 160~190, 194, 232, 233, 311, 388, 396, 400, 401, 403~405, 440

徳川和子 169~171, 173, 177, 179, 180, 182~184, 186

徳川義宣 127, 154

徳川吉宗 235, 236, 251, 324, 445, 447

徳政令 i, 3~7

徳山直政 174

土豪 9

土肥孫左衛門家文書 112

富田長繁 51, 53

豊臣政権 94, 151, 156, 233, 234, 254, 255, 264, 265, 268, 270, 276

豊臣秀次 64, 85, 118, 119

豊臣秀吉 i~iii, 41, 43~47, 60, 61, 64~70, 74, 75, 79, 80, 83~86, 94, 95, 100, 102, 105~107, 117, 118, 131~134, 160, 161, 177, 243, 257, 400

豊臣秀吉三百年祭 46, 47

豊臣秀頼 45, 65~68, 132, 134, 136, 156, 255, 257, 268

鳥居大路文書 23

な

長井健一家文書 64, 65

永井尚政 152, 174, 175, 177, 178, 180, 232, 305, 316

永井尚庸 291, 294, 295, 297

長井孫左衛門 340

中川家文書 127, 271

中川重政 25~29, 32, 38~40

中沢貞右衛門 371, 372, 376~379, 381, 382, 385, 386

中院通村 172, 173, 179, 184~186

中村孝也 iv, 120, 125~127, 154

中村拓 69, 71, 72, 74~76, 92

中村不能齋採集文書 94, 271

中村吉治 4

名古屋(尾張) 418, 419, 424, 427, 429, 431, 434, 435

名護屋(肥前) 44, 65, 69, 85

長東正家 79, 121, 255, 256

南瞻部洲大日本国正統図 76

南禅寺文書 271

南蛮(人) 73, 86

南蛮船 71, 86, 88

に

新見吉治 428, 438

二条大手門番 304, 316

日本口 81, 82, 86

日本図(屏風) iii, 69, 71, 74, 76~79, 81, 84, 89, 91, 92

日本耶穌会年報 58, 138

丹羽長秀 25~29, 31, 32, 38, 50, 51

## ぬ・ね・の

抜地 10, 19

根来寺 59, 60, 63

根来寺焼討太田責細記 60, 62

根来衆 ii, 58~63

根来破滅因縁 60

年中行事 ix, 373, 395, 429~438

ノビスパニア 88, 89

は

買地安堵制 20~22

博多 77, 78

萩藩 207, 394

萩藩閩閩録 58, 59, 63

幕藩官僚制 232, 234, 235, 237, 238

羽賀寺年中行事 4, 6

羽柴秀次 119

羽柴秀吉 ii, 48~57, 60

橋本才兵衛 371, 372, 374~378, 380, 382, 383

秦才藏 376, 378, 381

鉢伏山城 52, 56

鼻塚 45

早川長政 44

林董一 346, 422, 428, 438

番方 326, 419, 420, 431

ひ

東勢井村(若狭) 13, 15, 17, 24

彦根藩井伊家文書 95

秀吉事紀 61

広島(城) 157, 317

広野孫三郎 26~28, 30, 33~35, 40

備後 77, 156, 157

ふ

福井久藏 365, 385

福岡藩 241

福島正則 156, 157, 161, 165, 166

福田千鶴 66~68

福岡彦右衛門 207, 213~215, 394, 397, 398

武家官位 iv, 140~154, 444, 445

武家諸法度 239, 240, 243, 382, 386

武家伝奏 145, 149, 151, 153, 173, 179, 184, 186, 276, 277

武家屋敷 302, 303, 305, 307, 314

藤木久志 9, 20, 21

藤田恒春 291~300

藤田元春 74, 93

伏見 66, 67, 130, 131, 133, 135, 259~261, 265, 269, 280, 282, 283, 289, 290, 295, 298, 300, 425, 426

伏見城 67, 128, 151, 161, 269

伏見奉行(町奉行) 281, 282, 284, 288, 289, 292, 297, 299, 300, 304, 305

豊前 77, 157, 158, 316, 317

触 vi, 247~252

触留 251

分知 vii, viii, 224, 227, 230, 231, 246~250, 253, 359, 361~363, 366, 442

へ・ほ

平郡(安房) 230, 247, 352

ほいれく(会寧) 80, 83

法雲寺文書 57

豊国社(廟) 46, 47, 275, 435

保科正之 221, 364

細川忠興 157, 158, 205~207, 216, 307, 318, 397

細川忠利 205~207, 216, 395, 397

北極海 75

北国 118~120

堀田正盛 200, 209, 213, 232

保々文書 56

堀勇雄 386

堀秀治 94, 111

ポルトガル(人) 71, 72, 74, 75, 87, 88, 190

河富雄 v

本覚寺賢会 52, 56

本願寺 53, 83, 258, 304, 424, 425, 427

本郷信富(治部少輔) 30, 32~34, 36, 37

本郷文書 33, 40

本多氏古文書等 390

作人 10, 14, 15, 18  
 鎖国 92, 190  
 佐渡(島) iii, 76~78, 87, 118, 122, 123  
 佐渡年代記 118  
 真田信幸 164  
 真田昌幸 160, 164  
 真田文書 271  
 佐野領(下野) 230, 361, 362, 373  
 参勤交代 240, 241, 244, 365, 389~391, 394  
 山州名跡志 46  
 三条西実条 173, 178, 184, 186  
 三田共有文書 56  
 し  
 塩川藤右衛門 376, 377, 379, 381  
 侍講 viii, 364~387  
 執奏 iv, 146~153  
 七里頼周 53  
 地主的土地所有 9  
 篠河兵庫助 48, 49, 53~55, 57  
 柴田源三郎家文書 357, 358  
 支藩 vii, 314, 346~350  
 渋谷美枝子 133, 135, 138  
 島原の乱 210, 214, 240, 241  
 下村効 146~154  
 下八木共有文書 56  
 主従制 x, 234, 237, 238, 243, 439, 445~447  
 拾樵雑話 i, vii, 3, 315, 326, 336~340, 342, 346, 345  
 宗門御改書出 321, 323  
 儒学 364~367, 373, 376, 378, 385  
 儒者 45, 364, 365, 378, 380~386  
 出頭人 145, 153, 232, 233, 237, 238, 438, 440  
 舜旧記 258, 261~263, 273  
 成就院文書 272  
 照順寺文書 112  
 城代組同心 419, 420, 430  
 浄得寺図 69~73, 76~79, 81~84, 91  
 正保国絵図 223, 224, 226  
 正保郷帳 107, 113, 219, 220, 222, 223,

225, 226, 230, 231, 284, 348, 349  
 生類憐みの令 409~411  
 初期地図屏風 69, 70, 81, 82  
 所司代(京都所司代) i, vi, 52, 149, 151, 153, 175, 178, 185, 232, 245, 248, 253~278, 280~282, 287~300, 302, 304, 305, 307, 308, 310~314, 316, 409, 442  
 所司代屋敷 263, 270, 304  
 白井(家)文書 23, 40  
 白井伊胤 11, 16, 19, 20  
 城受取 241, 242  
 人口調査 227, 324, 335  
 信長公記 35, 40, 54~57  
 神明神社文書 28, 32, 33, 39  
 菅原憲二 410~412  
 す  
 鈴木重辰 286, 292, 299  
 鈴木良一 4, 7  
 捨子触 ix, 409, 410, 412  
 捨子養子制 411, 412  
 スペイン(人) 75, 86~88, 92  
 住友家 iii, 117, 118, 125  
 せ  
 せいらむ(ん) 72, 73  
 世界図(屏風) iii, 69~75, 79, 81, 82, 88, 89, 91, 92  
 関ヶ原の戦い(関ヶ原合戦) iv, 59, 60, 106, 117, 132, 155~167, 187, 253~256, 258, 259, 264, 268, 275, 368, 400, 401  
 関山直太郎 326, 327, 334~336  
 世滅制 235  
 扇面三国図 84~86, 91  
 そ  
 惣結合 19, 20, 22  
 雑色 250, 254, 258, 262, 268, 295  
 総持寺文書 56  
 側用人 ix, x, 439~448  
 染谷光広 49

## た

代官奉行 281, 289  
 大闇検地 9, 22, 94  
 大唐の御先手 155, 156  
 大唐の渡口 155  
 大明(国) 73, 80, 82, 85, 87, 88  
 高木昭作 197, 198, 200, 202, 203, 217  
 高島郡(近江) 117, 131, 132, 230, 347, 362, 401  
 孝亮記 272  
 高埜利彦 v, 169, 187  
 高椋節夫家文書 112  
 高波武右衛門家文書 112  
 高橋梵仙 327, 335  
 高仁親王 168, 169, 177~179, 185, 186  
 田島(若狭) 231, 348, 349  
 滝川政次郎 253, 271  
 竹内輔常家文書 112  
 竹内利美 346, 347, 350  
 武田恒夫 92  
 武田元明 26, 30, 32~34, 36, 37, 40  
 武田元光 5, 6, 11, 14, 16, 21, 23, 24  
 武田義統 25~31, 33~39  
 建部伝内 169, 171, 174, 182  
 足高制 235, 447, 448  
 尋人触 ix, 409, 414~417  
 豊奉行 ix, 419, 421, 424, 430, 431  
 韃靼国 80, 81  
 立石(浦) 48, 49, 54  
 立石区有文書 55  
 立花文書 v, 192  
 立花宗茂 192~195  
 伊達政宗 156, 162~164, 192  
 田中一角 376, 377, 380  
 田中好庵 365, 371~374, 376~378, 380, 382, 383, 386  
 田中清六(正長) iii, 117~124  
 田中清六関係文書 iii, 117~125  
 田中梓文書 iii, 117, 118  
 田中宗親書上 iii, 117, 118, 120, 121, 123, 124  
 段銭 4, 7, 10, 14~20, 22, 23

たんへ(題々) 79, 80, 82

## ち

千賀源右衛門 374~378, 380, 383, 386  
 知行方目録 94, 95, 102, 106, 107, 109, 113  
 筑後 77, 107, 117, 194, 306, 317  
 筑前 iv, 77, 107, 155, 156, 158, 159, 241  
 竹生島 51, 53  
 竹生島文書 56, 57  
 地券 vii, 351, 355~357  
 地図屏風 69, 70, 72, 81, 82, 91  
 中国東北部 69, 71, 81, 82, 89, 91  
 長源寺 ii, 12, 13, 15, 20  
 長源寺文書 14, 21, 23, 24  
 朝鮮 43, 44, 46, 47, 71, 72, 79~84, 89, 90  
 朝鮮出兵(侵略) 43~45, 69, 70, 74, 79, 80, 82, 85  
 朝鮮通信使(使節) 46, 47, 251  
 朝鮮半島 70, 72, 76, 79, 82, 84  
 町代 248~251, 311, 312, 409  
 町代日記 414  
 町用人 411, 413  
 地味札 vii, 349, 351~358  
 朝廷 149, 154, 169, 171~173, 179, 180, 185, 187, 239, 264, 270, 271, 275, 277, 278, 314, 373, 409  
 地理認識 iii, 69~93  
 っ  
 月番制 206, 213, 235, 236, 445  
 継飛脚 250  
 対馬 69, 77, 78, 87, 88, 90, 277  
 土屋数直 291  
 土屋豊孝家文書 112  
 敦賀(郡) vi, 31, 50~55, 117, 118, 230, 278, 334, 344, 347~349, 352, 353, 361~363, 401

## て

天下人 232, 243, 440  
 天竺 43, 87  
 天保国絵図 227, 228  
 天保郷帳 219, 227, 228, 231, 327



か

加々爪直澄 292  
 加賀樹芝朗 428, 438  
 下級武士 ix, 418, 419, 424, 429  
 加地子(得分) i, 9~23  
 笠井助治 386  
 笠谷和比古 v, 168, 171, 176, 186, 187  
 梶又左衛門  
 ii, 25, 26, 28, 30, 34, 35, 37, 38, 40  
 勧修寺家文書 iv, 140, 141, 143, 154  
 勧修寺光豊  
 141, 145, 149, 151, 153, 267, 276, 277  
 片桐且元 130~133, 138, 257, 261  
 勝山藩(安房) vii, 347, 349, 350, 352, 353  
 加藤清正 79, 80, 82, 83, 85, 90, 91, 140,  
 145, 146, 148  
 加藤茂晴 141, 145, 147, 148, 154  
 加藤平入 312  
 加藤正次 253, 254, 259~261, 263~265,  
 268~270, 273, 275  
 狩野永徳 69, 70, 92  
 加納久通 445  
 鎌田道隆 254, 271, 281, 284, 285, 288,  
 289, 294, 296~301  
 神坂二郎 ix, 421, 428, 438  
 紙屋敦之 91  
 賀茂莊(若狭) 12, 15, 16, 19, 20  
 賀茂別雷神社文書 23  
 唐(大唐) 81, 82, 85, 86, 90, 155, 156, 403  
 川合文書 56  
 河手龍海 346  
 川村博忠 v, 220  
 河村平右衛門(河村) 69~72, 76, 78, 79, 81, 82, 89, 91  
 漢城 79, 81, 85

き

義演准后日記 44, 67, 138, 156, 157, 256,  
 257, 259, 272~274  
 飢饉 333~335, 343, 344  
 菊池文書 38, 39  
 木越隆三 220, 231

木崎惕窓 i, 337  
 岸田春植 374~378, 380, 383  
 北川長次郎 326  
 北島正元 253, 271  
 北野社家日記  
 256~259, 261, 264, 271~274  
 北野宮仕記録 301  
 吉川蔵人 44  
 吉川家文書 45  
 木目城 52, 56  
 木下秀吉 25~29, 31, 32, 38, 39  
 京(京都) i, ii, vi, vii, ix, 30, 31, 43~47,  
 66, 73, 74, 80, 85, 86, 118, 133, 134, 138,  
 161, 174~176, 179, 180, 185, 186, 198,  
 245, 247, 248, 250, 251, 253~255, 257~  
 270, 275, 277~282, 285, 287, 288, 290~  
 296, 298~304, 306~315, 334, 343, 344,  
 389, 401, 409~412, 418, 419, 424~429,  
 431, 433  
 行基型日本図 76, 84  
 京極忠高 134, 138, 306, 317, 342, 395  
 京極高次  
 iv, 130~135, 137, 138, 306, 317, 396  
 京極マリア 131, 133~135, 137, 138  
 京都御役所向大概覚書  
 280, 285, 298, 299, 301, 315  
 京都奉行 254, 304, 305  
 京都町奉行  
 vi, 248, 250, 277, 280~302, 307, 308, 409  
 キリシタン禁制 vi, 130~139  
 近世小浜厳秘録 336  
 琴東洞 47  
 禁裏 171, 173, 229, 230, 258, 267, 285,  
 286, 292, 299, 303, 304, 315  
 禁裏付武士 292, 302, 308

<

空印様御書下 vii, 345  
 公事方御定書 236  
 九条家文書 274  
 朽木家古文書 131, 137  
 朽木元綱 vi, 130, 132~134, 137  
 国絵図 v, 90, 191, 198, 199, 219~228

国郷帳 219, 220  
 国割 156, 157  
 熊倉功夫 v, 168~171, 186, 187  
 公文名区有文書 358  
 蔵入(地) 94, 100, 101, 105, 107, 109, 110,  
 113, 114, 198  
 暮松新九郎 ii, iii, 64~68  
 軍役 61, 62, 95, 106, 107, 238, 239, 242  
 黒田長政 iv, 140, 148, 155~159, 165  
 黒田日出男 v, 220  
 黒田基樹 140, 154  
 黒宮清左衛門 376, 377, 379  
 桑田忠親 55  
 軍記物 367~370, 376, 378, 384

け

検地帳 vii, 107~112, 361, 363  
 元禄国絵図 222~226, 228  
 元禄郷帳  
 219, 222~226, 228, 230, 231, 348, 349

こ

小池進  
 v, 197~204, 206~208, 213, 217, 218  
 小出尹貞  
 281, 284~290, 292, 296~299, 301  
 小出秀政 257  
 黄海 70~72, 79, 82, 84  
 航海図 76, 79, 86~89, 91  
 公儀所日乗 viii, 213~215, 394~398  
 合議制 235, 236  
 講書  
 365~368, 370~375, 377~379, 384, 385  
 講釈 371, 372, 376~378, 420, 422  
 交趾 73, 87  
 郷帳 v, 219~231  
 高野春秋 60  
 高麗 69, 73, 77, 78, 81, 82, 85, 87, 89~90  
 御自分日記 299~301, 366~368, 370~  
 372, 376, 379~387  
 五野井隆史 139  
 近衛前子 173  
 近衛信尹 256

近衛信尋 178, 179  
 小林中図(小林) 69~73, 76~79, 81~84, 91  
 小葉田淳 ii, 125  
 小堀政一  
 233, 281~286, 288, 295, 298, 305, 316  
 小早川秀秋 94, 102, 107, 113, 114  
 駒井親直 174  
 後水尾天皇  
 v, 169~171, 173, 176, 182, 185~187  
 五味豊直  
 280~288, 295~297, 301, 305, 316  
 五味豊旨 285, 286  
 後陽成天皇 178, 277  
 混一疆理歴代国都之図 82, 84, 86, 92

さ

西福寺 i, 10~14, 16~21  
 西福寺文書(小浜)  
 5, 10, 14, 18, 21, 23, 24  
 西福寺文書(敦賀) 55~57  
 酒井家文書 297, 299, 314, 335, 345, 359,  
 363, 385, 402  
 酒井忠勝(讃岐守) vi~viii, 174, 177, 180,  
 199, 200, 203~205, 209, 213, 216, 230,  
 232, 233, 282, 299, 305, 306, 310, 316, 337  
 ~339, 341~345, 347, 365, 367, 379,  
 380, 386, 391, 399~406  
 酒井忠勝(庄内) 242  
 酒井忠垠 230, 231, 347~349, 359, 362  
 酒井忠国 230, 347, 349, 352, 353, 359,  
 362, 363, 366  
 酒井忠稠 230, 347, 349, 359, 362, 367  
 酒井忠隆 359, 366, 367  
 酒井忠利 193, 194, 399~401  
 酒井忠朝 200, 347, 352, 365, 366  
 酒井忠直 viii, 230, 299, 301, 347~349,  
 352, 359~387, 401  
 酒井忠進 301, 350  
 酒井忠世 144, 151, 153, 174, 177, 178,  
 180, 184~186, 193, 199, 203, 205, 232,  
 233, 400, 401  
 佐賀藩 , 241

## 索引

あ

青山忠俊 193, 194  
 青山宗勝 94, 95, 100~102, 106, 107, 109, 110, 113, 114  
 赤見貞 386  
 安芸 77, 156, 157, 317  
 秋岡武次郎 69, 85, 92  
 秋山国三 vi, 252, 297  
 明智光秀(十兵衛) 26~29, 32, 38, 39, 43, 55, 131  
 朝尾直弘 vi, 187, 253, 254, 258, 273, 280, 281, 284, 288~290, 293, 295~301, 311, 314  
 朝倉始末記 53, 55~57  
 朝倉攻め 30, 31, 50  
 朝倉忠兵衛 419, 430  
 朝倉兵庫助 53~55  
 朝倉義景 33, 50, 55  
 浅野長吉(長政) 64, 65, 80, 83, 164~166  
 浅野幸長 140, 146, 148, 161, 164, 165  
 朝日文左衛門 ix, 418~438  
 芦田伊人 69, 74, 92  
 筋生野区有文書 358  
 姉崎宇太郎家文書 112  
 姉崎正治 138  
 阿部重次 200, 215, 220  
 阿部忠秋 200, 209, 213~215, 220, 232, 391  
 阿部正広 259~261, 265, 268  
 天野文雄 iii, 64~68  
 雨森文書 56  
 天川 88  
 雨宮正種 281, 287~290, 292~297, 299, 301  
 網野善彦 4  
 有馬氏倫 453

荒尾但馬守 310  
 安国寺恵瓊 90, 258  
 安定(期)社会 i, ix, 407, 428, 439, 440

い

飯田権右衛門(半平) 367, 372, 374~376, 378, 381~383  
 井伊直政 157, 158, 163  
 イエズス会 74, 91, 134  
 イエズス会日本年報 134, 136, 137, 139  
 硫黄嶋 77, 78  
 沓岐 69, 77, 78, 87, 88  
 井組六左衛門 376, 377, 379, 386  
 池田家文書 314  
 池田光仲 310  
 池田光政 364, 396  
 石井家文書 228, 230  
 石井良助 247  
 磯竹(鬱陵島) 76~78  
 磯谷文書 273  
 板倉勝重 vi, 141, 144, 148, 149, 151, 232, 253, 254, 260~267, 269, 270, 273, 275~278, 298  
 板倉重矩 280, 291~295, 300  
 板倉重宗 vi, 149, 153, 173, 175~180, 182~185, 232, 275, 278, 283, 286, 287, 293, 295, 298, 304, 305, 310, 312, 316  
 板倉勇次 325  
 一国一城令 243  
 稲垣重昭 310  
 井上政重 210, 220~222, 226  
 井上正利 291, 292, 317  
 井上正就 174, 175, 177, 178, 180, 232  
 忌 ix, 396, 424, 429, 435~437  
 伊予 77, 158, 317, 318  
 遺領分知 vii, 359~363  
 岩沢愿彦 40, 90, 92

岩室坊 58~63  
 院御所 172~177, 179, 180, 185

う

上坂伊右衛門家文書 112  
 上杉景勝 164  
 上田城 160, 164~167, 400, 401  
 内徳 14, 16  
 浦戸湊 86  
 浦戸漂着西班牙船航海図 86, 87

え

蝦夷(エソ・ゑそ・夷) 71, 73, 75, 76, 78, 81, 82, 84~87, 89, 277  
 越前一向一揆 50~54, 56  
 越前金津城主溝江家 94, 102, 105, 112  
 越前国太閤検地 iii, 94~114  
 江戸 135, 153, 161, 163, 166, 176~179, 183~185, 194, 205, 214, 216, 221, 240~242, 244, 247, 248, 250, 251, 269, 281, 282, 285, 287~290, 292~295, 300, 303, 306, 307, 312~314, 338, 342, 343, 350, 365, 373, 383, 386, 388~390, 392~395, 397, 400, 402, 418, 429, 433, 435  
 江戸城 viii, 161~163, 166, 189, 190, 203, 239, 241, 244, 294, 359, 382, 394, 395, 397, 399~401  
 江戸図屏風 399  
 江戸幕府 v, ix, 140, 153, 169, 187, 197, 232~234, 240, 253, 271, 275, 278, 304, 388, 394, 439, 440  
 江戸幕府朱黒印内書留 v, 171~173, 175~179  
 江戸幕府日記 190, 199, 201, 203, 206, 208~211, 216, 218, 220, 282, 284, 298, 386, 388~390, 394~398, 406, 446  
 江戸触 248, 250

お

大飯郡(若狭) 32, 33, 336  
 鸚鵡籠中記 ix, 418, 428, 429, 431, 438  
 大音文書 3, 4, 7, 342  
 大久保長安 259~261, 265, 268, 269

大坂 59, 63, 66, 67, 88, 133, 136, 138, 156, 161, 174, 179, 180, 198, 247, 256, 257, 263, 264, 268, 271, 273, 278, 291, 401, 418, 419, 424~426, 428, 429, 431  
 大阪青山短期大学所蔵品図録 ii, 25, 38  
 大坂城 67, 68, 132, 139, 156, 239, 241, 244, 255~257, 269  
 大坂夏の陣 132, 401  
 大坂の陣 243, 278, 316  
 大坂冬の陣 132, 401  
 大坂町奉行 289, 304, 305, 316  
 大津(城) 132, 156, 166, 258, 268, 338~340, 343  
 小笠原長矩 291, 292  
 岡村家 118  
 岡本良知 69, 74, 76, 84~86, 91, 92  
 隠岐 76~78, 87, 277  
 荻野三七彦 254, 271  
 奥野高広 38, 40, 49, 56  
 奥平信昌 253, 254, 258, 259, 261, 268, 269, 272, 275  
 織田氏宿老連署状 ii, 25~40  
 織田信長 26, 27, 30~35, 37, 43, 49~56, 75, 131, 134, 160  
 織田信長文書の研究 27, 30, 32, 33, 38, 39, 56  
 遠敷郡(若狭) 11, 36, 38, 231, 336, 348  
 小浜 i, 3, 7, 11, 12, 36, 37, 132, 230, 305, 307, 315, 316, 334, 337~350, 359, 365, 366, 401, 402  
 小浜藩 vii, viii, 131, 230, 299, 315, 326, 335, 336, 344, 345, 347, 348, 350, 352, 359, 377, 379, 386  
 御触書寛保集成 227, 236, 447  
 おらんかい 69, 70, 73, 79~83, 86, 89, 91  
 折井孫右衛門 321, 325, 326  
 おり米(騒動) vii, 337~345  
 オルテリウス図 74, 75  
 お湯殿の上の日記 146, 151, 256, 271  
 女手形 283, 284, 290

◎著者略歴◎

藤井 讓治 (ふじい じょうじ)

- 1947年 福井県に生まれる。  
1966年 福井県立若狭高等学校卒業，京都大学文学部入学。  
1975年 京都大学大学院文学研究科博士課程単位修得退学，  
京都大学文学部助手。  
1977年 神戸大学文学部助教授。  
1983年 京都大学人文科学研究所助教授。  
1994年 京都大学文学部助教授，その後，同教授，大学院文学研究科教授。  
2012年 京都大学を退職。

きんせい ししゅうろんしゅう ぶんしよ とし  
近世史小論集——古文書と共に——

2012(平成24)年4月14日発行

定価：本体6,000円(税別)

著者 藤井讓治

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-751-1781(代表)

印刷 株式会社 図書 同朋舎  
製本

© J. Fujii

ISBN978-4-7842-1621-5 C3021